

駒場散策会

2017年7月1日(土)

文化委員会主催の恒例行事となった散策会。今年はいにくの小雨模様にもかかわらず、1年生21名、2年生23名、3年生13名、計57名の会員が参加し、親睦を深めながら駒場界隈の名所・旧跡を巡りました。当初予定していた公園内を歩くルートは短縮はあったものの、雨は大降りにはならず、楽しく教養を深めながら散策することができました。以下に当日の様子をご報告いたします。

【集合～出発】

午前10:00、駒場東大前駅の東京大学正門側(国際高校の反対側の出口)階段下に集合し、受付でしおりと散策会参加者の目印となるピンクのリボンを受け取り、散策スタート。今年は文化委員の高井さんが案内役を引き受けて下さいました。



駒場東大前駅に集合

【1. 東京大学教養学部 キャンパス巡り】

正門の大扉にある「柏葉」の透かし模様を見ながら、旧制第一高等学校(一高)から現在に至る東京大学の歴史に想いを馳せ、キャンパス内へ。大人数での移動のため全体を5グループに分けました。集合写真(最後に載せた大きな写真)は昭和8年に竣工した1号館前にて撮影。上部には時計台があります。その後、“一高ここにありき”の碑、900番教室(講堂)、ルヴェ・ソン・ヴェール駒場(フレンチレストラン)、“嗚呼玉杯”(旧制高校三大寮歌の1つ)の碑、一高校旗“護国旗”のレリーフなどを見学。小雨は降っていたものの、木々の緑に囲まれたキャンパス内の道は傘をささなくても歩ける場所が多かったです。

高井さんの説明に耳を傾けながら、メモをとったり写真に納めたりする参加者の熱心な様子は、もしかしたら子ども達の社会科見学よりもアツかったかも知れません。



“第一高等学校”の文字が!!



“一高ここにありき”の碑



←写真左

集合写真を撮影した時計台のある
1号館。国の登録有形文化財

写真右→

東大の新入生は、この看板を見つ
けて「なんだ、あれは?!」と言ひ合
うことで親睦を深めているとか？
私達も立ち止まってパチリ！



その後、“教養の道”と呼ばれるイチョウ並木を通り抜けて、緑豊かな東大を後にし、駒場公園へと向かいました。参加者の中には「同じクラスの参加者がいなくて…」と最初はちょっぴり不安そうなかたもいましたが、歩いているうちに自然とクラスや学年をこえてあちこちで話の花が咲くようになっていました。

【2. 目黒区立 駒場公園 旧前田家本邸和館】

駒場公園は加賀百万石の当主だった旧前田家の前田利為侯爵駒場邸跡です。洋館は残念ながら改築工事中でしたが、和館の1階広間は無料休憩所になっていて、縁側から眺める庭園（下の写真・左）は、鯉が優雅に泳ぎ、都会の公園の中とは思えません。また、欄間の透かし彫りもとても美しく、和館のスタッフの方の説明に参加者は熱心に耳を傾けていました。雨のため公園内の散策はできませんでしたが、庭を眺めてホッと一息つく時間となりました。



縁側から眺める日本庭園



広間のシャンデリアも素敵

【3. 日本民藝館】

生活の中にある美の概念を普及させる民藝運動の本拠地として、思想家の柳宗悦（やなぎ むねよし 1889-1961）により企画され、1936年開設された美術館。特別展は年に4回ほど作品の入れ替えがあるそうです。当日は2グループに別れて民藝館のスタッフから10分ほど説明を伺ったあと、自由行動となりました。色絵の器や、日本各地で100年以上前に使われていた織物・木工・陶磁器などの展示は親しみやすく、興味深いものばかりでした。

本館の建物自体が登録有形文化財となっており、階段の手すりやベンチにも昭和初期のレトロな雰囲気を感じられました。



散策の始めに東大教養学部1号館の前で撮影しました

参加者の皆様には、アンケートにもご協力いただきありがとうございました。

今年も沢山の会員の皆様と交流を深めながら散策会を開催することができましたことを、文化委員一同心より感謝いたしております。

文化委員会